

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493000234
法人名	株式会社エスケアメイト
事業所名	エスケアホーム大和
訪問調査日	平成27年7月31日
評価確定日	平成27年8月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000234	事業の開始年月日	平成25年4月1日	
		指定年月日	平成25年4月1日	
法人名	株式会社エスケアメイト			
事業所名	エスケアホーム大和			
所在地	(242-0007)			
	神奈川県大和市中央林間六丁目8番6号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の幼稚園との交流は開設当初から続けており、今年は中学校の職場体験の受け入れを実施する等、地域資源との交流を積極的に行っています。
 今後は一般の地域住民との交流を図れるよう介護を通じて、社会貢献に努めてまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年7月31日	評価機関 評価決定日	平成27年8月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①エスケアホーム大和は株式会社エスケアメイトが経営するグループホームです。株式会社エスケアメイトは有名な医薬品卸業のスズケン傘下の企業で「健康創造企業」の一翼を担っています。株式会社エスケアメイトの事業はエスケアステーション（在宅複合事業所としてデイ、ショート、訪問、居宅介護支援を持つ）、エスケアホーム&ライフ（グループホーム及び小規模）、エスケアリビング（介護付有料老人ホーム）の3つの分野で事業を展開し、利用者及び地域のニーズに合わせ首都圏及び中京圏で事業を展開し、今後の全国展開に向けてスズケン関連事業とシナジーしながら展開を企画しています。関東では本社を東京の浅草橋に置き、東京、神奈川、千葉、埼玉に事業所を展開しています。英語社名S-CARE MATEはSmile(笑顔)、Care(支援)、Mate(温かい関係)をキャッチフレーズとし介護を通じて社会に貢献することを企業理念として事業を展開しています。

②エスケアホーム大和はトレンディタウンの中央林間駅から徒歩7分、駅から近い場所にあります。静かで、緑も残る良い環境にあります。事業所はグループホームと小規模多機能事業所の複合施設で1階が小規模多機能事業所、2階、3階が2ユニットのグループホームとなっています。近くにコミセン（地域コミュニティセンター）や地域包括支援センターがあり、また、道を挟んだ隣には中央林間幼稚園があり、月に2～3回は散歩の途中に園児の訪問や秋の作品展への招待など交流があり元気をもらっています。

③株式会社エスケアメイトでは事業展開の基礎は職員の育成と考えており、また、このホームの新管理者もエビデンス（会社の定めた統一された基本介護方法など）に基づいた介護を方針として示しており、本社から毎月送られてくる事業所内研修資料（全事業所がこの資料に沿って毎月研修を実施することを義務付けている）に沿って教育研修委員会委員のコーディネートに沿って職員が交代で講師となり研修を進める体制となっています。企業の経営展開であるため、走りながら体制を作っていく進め方の為、開所当初は追いつかない面もあったと云っておられましたが、現在は体制も固まりつつあるとのことでした。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	エスケアホーム大和
ユニット名	2階 さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念を唱和するとともに、事業所独自の理念は会議において職員に共有している。しかし、管理者が変わって日が浅いため周知しきれていない。	株式会社エスケアメイトでは全社的に企業理念、経営方針、行動指針を定め展開しています。エスケアホーム大和ではこれらを唱和し、ケアの基本として職員に周知しています。新管理者は①エビデンス（に基づいた介護、②コンプライアンスの遵守、③職員同士のコミュニケーション強化によるモラリティの向上を示し、ホームの展開を図ることを明言しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公的機関との交流しかできていない。	中央林間内山自治会に加入し、お祭りなど地域の行事に参加しています。事業所の納涼祭は自治会の回覧板に載せ、お誘いしています。隣の中央林間幼稚園の園児が月に2～3回は散歩の途中で訪問してくれたり、秋の作品展へ招待してもらっている他、中学生の体験学習の受け入れを行っています。ボランティアは小規模の方の受け入れ、南京玉すだれ、フラダンスなどを一緒に楽しんでいます。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は出来ていないが、認知症サポーター養成研修等を実施していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の実施は定期的にはできているが、そこでの内容がサービス向上には活かされていない。	運営推進会議は小規模事業所と同じ日に一緒に実施しています。頻度は2ヶ月に1回、奇数月の最終水曜日を開催日と決めています。メンバーは大和市役所保険課又は地域包括支援センター（1回おきに交代で）自治会長又は民生委員、ご家族2名、それにホーム関係者です。現状、活動報告、活動予定、職員の交代、事故報告、利用者状況を報告し、ご意見・提案を聞いています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には年間3回は参加して下さっており、密ではないが比較的良好な関係は築けている。	大和市役所は好意的で、在宅介護の状況や困難事例等について相談にのってもらっています。また、加入しているグループホーム連絡会には積極的な参加を心がけています。地域包括支援センターが新たに近隣のスーパーマーケットの2階に出来たので、近くの地域包括センターと連携を取っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は実施していない。	身体拘束をしないケアを実施しています。本社から毎月送られてくる事業所内研修資料には「高齢者虐待及び身体拘束」の項目が必ず盛り込まれ、教育研修委員会委員のコーディネートに沿って職員が交代で講師となり研修を進めています。鍵はユニット入口及び玄関ともに日中は施錠していません。1階の事務室には小規模と兼任している事務職員を配置し、見守りを行っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は高齢者虐待に関する内部研修を実施し、定義をはじめ身体拘束についても理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に弁護士が後見人の方も入居されているが、必要性についての理解には乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み合わせて説明しているため、理解・納得が得られていると認識している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、そちらに記入することなく、直接職員に意見して下さっている。	ご家族の意見は基本的に来訪時に聞いています。開所後、ご家族から職員の名前が分からないとの指摘があり、名札を首から下げないようにしました。本来は職員の写真を貼り出す方が良いのですが、派遣の応援を依頼するケースもあって現状は名札にしています。後は介護計画更新時などにはレクの希望なども聞いています。緊急の場合は電話でもお聞きしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議において、運営に関して職員からの意見を聞く機会を設けている。	職員の意見は基本的にミーティングで聞いています。面接は最低年2回実施し、個人的な意見を聞くようにしています。昨年度は全職員に対してセクシャルハラスメント、パワーハラスメントについて無記名でアンケートを取り、結果を公表しました。今後は職員の自己実現のため、従業員満足度調査を実施していく方向で考えています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で解決できる環境整備については努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修及び事業者単位での内部研修を定期的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	併設事業所はもちろん、市内の連絡協議会にも参加し、同業他社との交流や情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談から情報収集し、職員にも事前に情報提供することで、入居当初から少しでも不安なく過ごして頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時・事前面談時・契約時等の際に情報収集し、少しでも不安なく入居して頂けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所のサービスに留まらず、アセスメントからお客様にとっての最適な環境及びサービスを見極めるよう支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体はお客様にあるということを念頭に支援するよう努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主体はお客様にあるということを念頭に、ご家族の意向も踏まえながら支援するよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状は面会にお越しいただく方との関係継続が図れていないため今後の課題。	現状は利用者があまり、懐かしい場所、知人などに逢いたいと言う方はおらず、ご家族との関係継続が中心となっています。入居者は大和市の近所の方が多いので、ご主人が入居している奥さんが別のフロアの女性入居者の友人だったケースで帰りに寄って昔し話をしていたことがあり、その入居者も懐かしい話が出来た例などもありました。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係構築がスムーズなものとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な事例はないが、契約終了後であっても必要な相談・支援に努める環境はある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中からの要望を漏らさないよう努めている。	思いとやっていることは必ずしも一致しないケースがあります。例えば体力、能力的にはポテンシャルがあっても、自分のことは自分でやってもらうことは必ずしも楽しくないケースもあります。男性が食事のお手伝いや洗濯物たたみが楽しくないケースも多く苦勞しています。出来ること、出来ないことを知ると同時に発した言葉などは特記事項として記録して、楽しく過ごして頂けるよう心がけています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントに限らず、入居後の日々の関わりの中から生活歴を掘り下げるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりから状態の把握には努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の理解及び周知、そのうえで正確なモニタリングの実施は今後の課題。	現在は特に居室担当を置かず、全員で情報を持ち寄り、ケアマネ、計画作成担当者が介護計画を纏めています。新管理者（ケアマネ）が6月に作った介護計画が8月で3か月経つのでモニタリング、アセスメントを実施し、エビデンス（根拠）を再確認し、チェックし、周知して行くことにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と介護計画の連動が今後の課題。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所内でサービスを多機能化させていくことは時間がかかるが、併設事業所等の関係機関との連携を図るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接幼稚園や近隣中学校との関係は構築できているため、その輪を広げていくことが今後の課題。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様及びご家族が主治医と良い関係が構築できるよう支援に努めている。	訪問診療が中心の中央林間東クリニックに往診を依頼しています。1回は全員の往診を2回目は個別に日程を決めて往診に来てもらっているため、急病の相談などにも乗ってもらえ、安心に繋がっています。内科の他にも皮膚科の往診や訪問歯科が週1回来ています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	概ね良好な関係を築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様やご家族の意向を踏まえて病院のMSWとも相談し、早期退院等の支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針に同意をいただくとともに、該当するような状況に至った際は、主治医も含めて協議するよう努めている。	契約時には指針に同意を頂いていますが、実際に終末期にさしかかった時に改めて、ご家族・医師・職員の3者で話し合い、看取りに関する同意を交わしてから実施しています。看取りでは自宅での看取りの希望も含めて考え、自宅希望の場合には小規模に利用を勧めたり、中央林間東クリニックでは自宅往診もしてくれる体制が整っているため、ご家族の希望に沿った支援をしています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡ルートは掲示しているが、応急手当や初期対応の訓練は今後の課題。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合防災訓練を実施しているが、全職員が身につけるよう今後努める。	年に2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しています。全職員が避難訓練に慣れ、慌てず対応出来ることを目指しています。また、事業所に完備されている緊急通報機やスプリンクラー設備の使用方法は勿論のこと、止め方についても指導しています。備蓄は三日分程度は保有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居から長期間を経ている方に対しての言葉遣いに関しては、慣れからくる不適切な言葉かけになりがちのため、特に注意するよう職員に周知している。	入居してからの期間が長い方については、慣れから来る不適切な言葉かけや対応に注意しています。常に、念頭に人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない会話、態度に留意するよう日頃から職員に周知しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限りお客様に選択していただくような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ不完全ではあるが、その人らしさを大切にした暮らしを支援するということを職員に周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはもちろんのこと、装いに意識が向くような環境づくりに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現状、盛り付け以外の調理には関わりがもてていないため今後の課題。	食材はレシピ付で食材会社から手配していますが、イベント時には食材を止め利用者のリクエストに合わせた食材を調達しています。利用者は1つの食卓を囲んで食事をし、職員は見守りや食事介助が必要な利用者の支援を行っています。外食は年2~3回行っていましたが、現在は利用者の重度化に伴い、出前をとることが多くなっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量は記録により管理・把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは就寝前が中心となっているため、毎食後の実施が課題。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄が促せるよう支援している。	現状ほぼ全員がトイレで行っています。基本的にトイレ誘導ですが、職員によって誘導が自立か手引きかの違いがあるケースもあるので、エビデンスに沿って同じ介護をするよう統一を図っています。失禁の可否については、パットが濡れていた時はトイレ誘導しても失禁カウントし、パットを汚さない介護を目標としています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない排便コントロールを目指しているが、現状はまだまだ途上である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的な入浴の決まりはあるが、都度都度のお客様の要望に合わせて臨機応変に実施している。	事業所には小規模の寝て入れる機械浴、グループホームの2Fの椅子式の機械浴、一般の個浴の3種の浴槽があり、必要に応じて使える体制になっています。現状は2Fの椅子式の機械浴の椅子も使うことが無く普通に入浴しています。見守り程度で入れる人は2~3人で後は介助しています。拒否の強い人はいないので、気分次第で時折拒否される人がいる程度です。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね実施できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては主治医とも相談しながら、お客様にとって必要な薬剤が必要な量の処方になるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状はまだまだ不足しているため今後の課題。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩しか支援できていないため今後の課題。	現状は遠出をできる方も少なく、近隣の散歩や庭のベンチでの外気浴程度の支援になっています。小規模の車を借りて遠出する際は、ハイエースと軽自動車の2台を借り、ユニットごとに出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己による現金管理は極力控えるように依頼しているが、買い物に出た際はこちら側の立替金により、お客様自身に支払っていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境には留意するよう努めている。	インテリアについてはリビングは生活の場と云う考え方で、子どもっぽい装飾にならないように配慮し、あまり物を置かないシンプルなレイアウトになっています。開所して丸2年が経ち、食卓テーブルの配置や和室の活用方法を含めたレイアウト変更を検討しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれる場所は確保していないが、他の利用者同士が思い思いに過ごせる環境に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、生活空間ということ意識するように努めている。	備え付けとして、クローゼット・エアコン・カーテン、プリンターが設置されており、その他の物については、入居時に使い慣れた物を持ち込んで頂くように伝え、可能な限り生活空間であるということ意識した環境作りに努めています。備え付けのクローゼットが広く、多くの物が収納できるようになっている為、ほとんどの居室はシンプルな部屋になっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・できないこと、わかること・わからないことの明確なアセスメントが課題。		

目 標 達 成 計 画

事業所

エスケアホーム大和

作成日

2015年8月16日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念の理解と実践	理念に基づくサービスの提供。	・介護計画の「総合的な援助の方針」の再周知。	6ヶ月
2	26	モニタリングの理解と実践	次に繋がる評価にしていく。	・評価をして終わるのではなく、サイクルの中の1つのファクターであることを再周知。	3ヶ月
3	40	食に関する満足度を向上	食材・時間・環境等「生きる」うえでの重要な「食」を充実させる。	・食事に関する嗜好調査の実施。 ・イベント食（撰択食など）の定期実施。	3ヶ月
4	49	外出頻度の増加に伴う社会交流	ただ散歩を増やすだけではなく、近隣住民との交流や自治会のイベントに参加する。	・日課としての外出支援。 ・定期的な買い物外出。 ・地域清掃やイベント参加。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	エスケアホーム大和
ユニット名	3階 なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当社の理念を唱和するとともに、事業所独自の理念は会議において職員に共有している。しかし、管理者が変わって日が浅いため周知しきれていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公的機関との交流しかできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は出来ていないが、認知症サポーター養成研修等を実施していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の実施は定期的にできているが、そこでの内容がサービス向上には活かされていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には年間3回は参加して下さっており、密ではないが比較的良好な換気は築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は実施していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は高齢者虐待に関する内部研修を実施し、定義をはじめ身体拘束についても理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現に弁護士が後見人の方も入居されているが、必要性についての理解には乏しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全文を読み合わせて説明しているため、理解・納得が得られていると認識している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、そちらに記入することなく、直接職員に意見して下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議において、運営に関して職員からの意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で解決できる環境整備については努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修及び事業者単位での内部研修を定期的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	併設事業所はもちろん、市内の連絡協議会にも参加し、同業他社との交流や情報交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談から情報収集し、職員にも事前に情報提供することで、入居当初から少しでも不安なく過ごして頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時・事前面談時・契約時等の際に情報収集し、少しでも不安なく入居して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自事業所のサービスに留まらず、アセスメントからお客様にとってのベストな環境及びサービスを見極めるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主体はお客様にあるということを念頭に支援するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主体はお客様にあるということを念頭に、ご家族の意向も踏まえながら支援するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状は面会にお越しいただく方との関係継続が図れていないため今後の課題。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係構築がスムーズなものとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な事例はないが、契約終了後であっても必要な相談・支援に努める環境はある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中からの要望を漏らさないよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントに限らず、入居後の日々の関わりの中から生活歴を掘り下げるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりから状態の把握には努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の理解及び周知、そのうえで正確なモニタリングの実施は今後の課題。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と介護計画の連動が今後の課題。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所内でサービスを多機能化させていくことは時間がかかるが、併設事業所等の関係機関との連携を図るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接幼稚園や近隣中学校との関係は構築できているため、その輪を広げていくことが今後の課題。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様及びご家族が主治医と良い関係が構築できるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	概ね良好な関係を築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様やご家族の意向を踏まえて病院のMSWとも相談し、早期退院等の支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針に同意をいただくとともに、該当するような状況に至った際は、主治医も含めて協議するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡ルートは掲示しているが、応急手当や初期対応の訓練は今後の課題。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の総合防災訓練を実施しているが、全職員が身につけるよう今後努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居から長期間を経ている方に対しての言葉遣いに関しては、慣れからくる不適切な言葉かけになりがちなため、特に注意するよう職員に周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限りお客様に選択していただくような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ不完全ではあるが、その人らしさを大切にした暮らしを支援するという事を職員に周知している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはもちろんのこと、装いに意識が向くような環境づくりに努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現状、盛り付け以外の調理には関わりがもてていないため今後の課題。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量は記録により管理・把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄が促せるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない排便コントロールを目指しているが、現状はまだまだ途上である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的な入浴の決まりはあるが、都度都度のお客様の要望に合わせて臨機応変に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね実施できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては主治医とも相談しながら、お客様にとって必要な薬剤が必要な量の処方になるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状はまだ不足しているため今後の課題。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	近隣への散歩しか支援できていないため今後の課題。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故による現金管理は極力控えるように依頼しているが、買い物に出た際はこちら側の立替金により、お客様自身に支払っていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境には留意するよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれる場所は確保していないが、他の利用者同士が思い思いに過ごせる環境に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、生活空間ということを意識するように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・できないこと、わかること・わからないことの明確なアセスメントが課題。		

目 標 達 成 計 画

事業所

エスケアホーム大和

作成日

2015年8月16日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念の理解と実践	理念に基づくサービスの提供。	・介護計画の「総合的な援助の方針」の再周知。	6ヶ月
2	26	モニタリングの理解と実践	次に繋がる評価にしていく。	・評価をして終わるのではなく、サイクルの中の1つのファクターであることを再周知。	3ヶ月
3	40	食に関する満足度を向上	食材・時間・環境等「生きる」うえでの重要な「食」を充実させる。	・食事に関する嗜好調査の実施。 ・イベント食（撰択食など）の定期実施。	3ヶ月
4	49	外出頻度の増加に伴う社会交流	ただ散歩を増やすだけではなく、近隣住民との交流や自治会のイベントに参加する。	・日課としての外出支援。 ・定期的な買い物外出。 ・地域清掃やイベント参加。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。